

こども教育会議 会議録

日時	場所	出席	小松市長 浦郷教育長、 教育委員（諸石、古場、前田、河内、岡本、森、奥川、貝原） ※犬走委員欠席 中野企画財政部長、 溝上こども教育部長、諸岡こども教育部理事 教育政策課（牟田課長、樋渡係長） 企画課（古賀課長、松尾係長、松尾、富永）
平成27年10月22日（木） 14:00～14:30	武雄市役所（本庁） 3階会議室		
1. 協議件名		第7回こども教育会議 （教育大綱の発表）	

議事録

内容

1 開会（進行：中野企画財政部長）

2 議事（議事進行：小松市長）

（1）教育大綱の発表

⇒市長から教育大綱を発表し、出席者は拍手で同意を表明した。

⇒市長及び教育長、教育委員から教育大綱について意見を陳述した。

<市長の発言>

- ・教育は、教育関係者だけではなく、市民ひとりひとりが関心を持って、子どもをみんなで育てていこうという考え方が大事である。そのため、教育大綱もこちらから市民に「伝える」のではなく、「伝わる」教育大綱にするのが望ましいと考え、シンプルで「伝わる」教育大綱としたところである。
- ・市民ひとりひとりが教育を考えるときに、まず「子どもたちが主人公だよ」と、何かをするときには誰と「組もうか」と、こういったことが自然と頭に浮かぶような願いも込めてこういった形にした。この教育大綱を、武雄市の教育のいわゆる北極星にしていきたいと考えている。

<出席者の意見>

- ・理解に時間がかかるかもしれないが、「組む」というのはインパクトがあって市民の子育てに対する意識が高まるのではないかと思う。これをどう実践していくかが大事である。
- ・「組む」という字を見て、まず組体操、ピラミッドの形を思い浮かべた。ピラミッドを組むときに、土台になるところがしっかりしないと、上のピラミッドを立てていくことはできない。武雄市の教育が、これからきちっとした土台のもとに組み立てられていくものでありたいと思う。
- ・「組む」の語源には「異質のものをより合わせる」とある。学校、地域、家庭、行政と民間という垣根を越えて、異質なものがうまく組み合わさり未来へ進んでいくという前向きな大綱ができたと思う。
- ・未来に向かって、それぞれが手を組み合せて、明るく、力強く、子どもを育てていくという力強いメッセージが伝えられると思う。
- ・教育大綱は紙一枚で、家の中などどこにでも貼れる。教育に力を入れている武雄市にふさわしい大綱ができあがったと思う。
- ・「武雄市の教育」の基本方針においても、学校、家庭、地域の基本的な役割を定義し、相互に連携している。これからも学校、家庭、地域が相互に組みながら、将来武雄市を担う子どもを育成につなげていきたい。

- ・これまでもさまざまな相手と組むことで教育の可能性を探ってきた。「組む」ということは、非常に大きな可能性が湧いてくる。これからの教育、社会を進める大きな方向が出されたと思う。

3 その他

(1) 次回開催について

- ・当初予定していた11月19日は市長公務のため延期する。次回日程は今後調整。

4 閉会（進行：中野企画財政部長）

教育
大綱

未来を想ふ

公立小松市立入会

組
立

武雄市長

小松

武雄市長
之印

武雄市教育大綱 解説

この大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、策定するものです。
期間は平成27年度から平成30年度までの4年間とします。

基本理念

未来を担うすべての子どもを主人公に

指針①

0歳からの
郷土愛

○○○ × □□□

組む

指針②

徹底的
家庭応援

指針③

21世紀型
スキル

指針① 0歳からの郷土愛

すべての子どもたちに、ライフステージに応じた育ちと学びの機会と多様な選択肢を提供し、学ぶ楽しさを生涯にわたって実感できる武雄市をめざします。

こどもを中心に、地域の人々がつながることで、にぎわいを創出し、ぬくもりを感じるまちづくりを行います。

こども教育会議での意見

○連続した学び・ライフステージ

- ・0歳からそれぞれの段階(年齢)で連続的に育っていくという視点が大事。
- ・まなびは生きがいの大きな柱。
- ・体験活動を通じて学ぶことが大事。

○地域

- ・地域のこどもは地域で育てよう。
- ・官民の民は「町民」の民。
- ・地域総ぐるみの持続可能なシステムが必要。

主な事業や取組例

- ・未就学児に対する教育の機会と選択肢の提供
- ・学校支援地域本部、コミュニティスクールの取り組み
- ・高校生への多様な学習機会の提供
- ・幼保小中の連携の推進 等

指針② 徹底的家庭応援

安心して子育てができる環境を構築し、こどもの笑顔が溢れる社会を実現します。

保護者の学びの機会を増やし、子育ての楽しさや喜びを実感できる社会づくりを進めます。

こども教育会議での意見

○家庭・子育て

- ・こどもの笑顔が見られる子育て、母親が家庭で輝ける存在、女性が輝ける街が望ましい。
- ・教育の土台は家庭。家庭・学校・地域の連携を密にする必要がある。
- ・子育て中の親を応援する社会づくりが大切である。
- ・子育てに対する不安を和らげる取り組みが必要ではないか。
- ・親が学ぶ機会「親塾」、「保護者塾」を開催したらどうか。

主な事業や取組例

- ・放課後児童クラブの時間延長
- ・病児保育の実施
- ・小児医療体制の充実
- ・武雄市図書館を中心とした都市魅力アップ事業
- ・保護者向け学習会の開催
- ・妊娠中の母親・父親学級の充実 等

指針③ 21世紀型スキル

ICT利活用教育や花まる学習などさまざまな手法により、協働的問題解決能力など、これからの時代に必要なスキルを身に付け、新たな時代を生き抜く力を育成します。

こども教育会議での意見

○21世紀型教育、アクティブラーニング

- ・21世紀は創造していくことが求められる。
- ・知識をどう活用するかが大事になってくる。
- ・協働的問題解決能力の育成。

主な事業や取組例

- ・スマイル学習
- ・花まる学習
- ・プログラミング学習
- ・SSS(スーパー食育スクール)
- ・外国語教育の推進
- ・情報モラル教育の推進
- ・特別支援教育の充実 等

組む

既成概念にとらわれず、情報を共有し、地域、家庭、学校、企業、さまざまな機関が連携、チャレンジ、実践します。

家庭

公民館

企業

相談支援センター

スクラム

CCC

幼稚園

放課後児童クラブ

タニタ

青年会議所

ファミサポ

東洋大学

塾

コミュニティスクール

武雄市



教育委員会

DeNA

関西大学

高校

○○○

こどもクラブ

□□□

花まる学習会

NPO

医師会

保育園

子育て総合支援センター

夏休みこども教室

学校支援地域本部

放課後子ども教室

JA

地域

学校